

第2学年 日本語学級「なかまのことばとかん字」（オンライン授業）

トピックのねらい	○身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。 ○言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。
日本語の目標	○意味のまとまりに着目し、「○○は～の仲間です。」という文型を使って、言葉や漢字の仲間分けをすることができる。 ○習った漢字を使って、集めた言葉を書くことができる。
関連	教科・単元 国語科「なかまのことばとかん字」A 算数科「時こくと時間」B 図工科「カラフルいろみず」C
	くらし・行事 フィリピンの食べ物 D
主な学習活動	① 言葉の仲間分けをする。 ② 文型を使って、仲間分けの観点を説明する。 ③ 習った漢字を使って、集めた言葉の漢字を書く。

教材・教具：国語の教科書、仲間分け用の jamboard、文型説明用のスライド

授業展開

時間	学習活動	指導のポイント 支援「○日本語 ◇教科 *バイカルチュラル視点」	関連
1	1 日本やフィリピンの食べ物の写真をみて、名前を答える。	*バイカルチュラルの視点を取り入れるために、日本だけでなくフィリピンの食べ物も紹介する。 ◇本時の活動へつなげるために、すべて食べ物の仲間であることを確認する。	D
	ことばのなかまわけゲームをしよう。		
	2 教科書 P130 の言葉について、仲間分けゲームをする。 ・家の人 ・お金 ・一日	○操作しながら言葉を仲間分けできるように、jamboard を用意する。 ○できるだけ発言の機会を増やすために、グループでの活動にする。 ○◇「○○は～の仲間です。」という文型を示して、仲間分けの観点を発表できるようにする。	A B
	3 教科書 P131 の言葉について、仲間分けゲームをする。 ・教科 ・色 ・天気	○操作しながら言葉を仲間分けできるように、jamboard を用意する。 ◇つけ足せる言葉がある場合には、記入してもよいことを伝える。	A C
	4 集めた言葉を使って、文を書く。	○言葉を自分で選んで文を書くように声をかける。 ○習った漢字はできるだけ使うことを伝える。	A
5 学習をふりかえる。	◇本時の学習を振り返ることができるよう、がんばったことやできるようになったことを発言する時間をとる。		

【活動3の様子】

児童自身がJamboard上でカードを動かし、お互いに確認しながら楽しく言葉集めができるようにした。その後、「〇〇は～のなかまです。」のモデル文を使って、自信をもって言えるように練習した。



# 令和3年度 第2学年 日本語学級「なかまのことばとかん字」ふりかえり

<b>児童 の 様子</b>	<p>《日本語学級での様子》</p> <p>○導入で提示されたフィリピンと日本の食べ物の写真を見て、積極的に挙手をして発言することができた。</p> <p>○Jamboard を使って操作しながら、「家の人」「お金」「一日」「教科」「色」「天気」の仲間の言葉を整理することができた。</p> <p>○文型「〇〇は～です」を使って、仲間分けをした言葉の説明をすることができた。</p> <p>○自分が選んだ言葉を使って、参加した全員が文を書くことができた。</p> <p>▲文型を使って発表するときに、「の仲間」という部分が抜けている児童がいた。教師が指導をしたら訂正して言うことができた。</p> <p>▲学習した言葉を使って文をつくる活動で、「母は十円があります。」のような文をつくる児童がいた。教師が訂正した文を伝え、児童は復唱した。</p> <p>《在籍学級での様子》</p> <p>○自分から進んで手を挙げて発言できた児童が多かった。自信をもって学習に臨んでいるのが見て取れた。</p>	
	<b>学習活動</b>	<p>○導入で写真を提示することで、児童が興味をもって活動に取り組むきっかけとなった。</p> <p>○Jamboard の操作活動を取り入れることで、児童が楽しみながら語彙の学習に取り組むことにつながった。</p> <p>○文型「〇〇は～の仲間です」を使って繰り返し発言する機会をつくることで、文型を覚え、一人一人が自信をもって発表することにつながった。</p>
<b>案 日本語支援 時間目</b>	<p>△学習した言葉を使って文をつくる活動で、誤った文を作った児童を指導し、訂正したが、復唱させるのみで終わってしまったため、本当に理解できたか確認できなかった。</p> <p>→他の言葉を使って似たような文を再度作るよう指示することで、教師の指導が理解できたか、正しく文を作れるようになったかを確認できる。</p>	
<b>について</b>	<b>課題</b>	